

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 12 月 8 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3890300068
事業所名	グループホームあかり
(ユニット名)	すばる
記入者(管理者)	
氏名	森田 みちよ
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 5 日

<p>【事業所理念】</p> <p>共に生きる</p> <p>【ユニット目標】</p> <p>想いをつむぐ心 想う事1つ叶えは、また1つ。 気持ちを取り、支援に繋げる。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①外部評価結果や目標達成計画による事業所の取り組みについて、家族や地域住民への周知が不十分である。 ○運営推進会議での説明・報告は出来ており、家族にも書類を同封し理解を頂いているが、地域住民に対しての周知が出来ていない。 ②事業所が行っている月に1回の相談支援や施設の見学の受け入れについて、不十分である。 ○ポスター製作が出来ていない。その代わりに広報を配布しているがその際に、口頭での説明も出来ていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は市内を一望できる高台にあり、リビングの窓から宇和島城の絶景を望むことができる。敷地内にある広い芝生の庭が特徴的で、その側らにある畑には季節の野菜を植え、収穫期には保育園児を招いて芋掘りを一緒に楽しむことができ、今回も収穫した芋を使用して、モンブランケーキを利用者と一緒に作り、笑ちゃんカフェで味わうことができた。笑ちゃんカフェは、お品書きからテーブルクロス、食器にまでこだわり、本格的なカフェとなっているものの、現在のコロナ禍において、外部からの参加の呼びかけを控えている。また、事業所では、利用者の要望に耳を傾け、代表者は安全さえ確認できれば、躊躇なくOKサインを出し、職員は早期の実行に移すとともに、利用者自身ができることや楽しめること、笑顔を大切に考えて、職員全員が楽しみのある生活が送れるような支援に取り組んでいる。代表者と管理者、職員がともに会話を交わしながら、利用者を尊重した丁寧な支援が行われている様子をつかがうことができた。世代交代を考えている代表者と、受け継ぐ息子夫婦は、「職員の手本となるよう、これから何事にも挑戦していきたい」などと謙虚に話されていた様子が印象的であった。さらに、職員の聞き取りから、「利用者と一緒に楽しませてもらっている、利用者の笑顔に助けられている」などの意見を聞くことができた。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃の会話などから収集し、把握に努めている。	○	/	◎	日頃から、職員は利用者との会話を多く持つよう努めており、ケアを通して思いなどを聞いている。また、お茶タイム時に、利用者から「お寿司を食べたい、おはぎが食べたい」などの要望が出された場合には、急きょ献立を変更する対応を取ったり、おやつにおはぎを提供したりするなど、可能なことは迅速に対応し、利用者等の満足度に繋がっている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や仕草から本人はどうなのかと、把握に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会が困難な中、TELなどで相談している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の記録などに記して、共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	傾聴・声掛けなどに気を付け、努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時にアセスメントを作成する際、本人や家族から情報を頂き、把握している。	/	/	○	入居前に、管理者等は利用者の自宅を訪問し、利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き、情報を把握している。また、退院カンファレンスに職員が参加するとともに、介護支援専門員や医療関係者から、身体状況等の情報収集に努めている。さらに、把握した内容はアセスメントシートに記載し、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人の言動や表情など気付いた事を、24hシートに記録し現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	表情や言動に注意し、24hシートに記録し申し送りや、ユニット会で情報共有をしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	毎日、2回の申し送りを通して、1日の様子や体調変化を把握できるように、努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	健康チェックシート・24hシートなどを確認し、把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントや24hシートを利用し、モニタリングやカンファレンス等で何が必要か検討している。	/	/	○	事業所独自のアセスメントシートの情報をもとに、事前に利用者の思いや意見を聞き、ミーティング後に実施するユニット会議を活用して、利用者の視点に立って、職員間でより良いサービス等を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会で、本人がより良く暮らすためには何が必要か話し合いを持ち、変更があれば計画書を作り変えている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人の希望を聞き、課題を明確にし目標を決め、ケアプランに記載している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	認定更新時に本人や家族から意向を伺い、その内容をケアプランに反映している。	/	/	/	入居時には、「事業所に慣れてもらう」などを目標に入れた介護計画を作成している。また、介護計画の更新時には、事前に利用者から意見を聞くほか、主治医等のアドバイスをもらい、アセスメントシートの情報と、24時間シート等でサービスの実施状況等を確認しながら、家族と職員を交えて話し合い、計画作成担当者を中心に計画を作成している。さらに、計画には、利用者や家族の意見のほか、職員の意見やアイデアを反映させた内容となるよう努めている。加えて、利用者から出された、「食事を美味しく食べたい」という意見を目標に取り入れて、「①嫌いな食べ物は食べれるように変えて、量を加減する、②見た目も工夫する」などの職員のアイデアが反映された計画を確認することができた。現在のコロナ禍において、家族から電話等で意見や要望を聞いている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	TELで家族と情報交換や、意向の確認に努めている。変化があった場合はその都度、カンファレンスを実施し、意見やアイデアを反映している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	×	今現在、重度の利用者がいない為。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族には依頼し、協力して頂き盛り込めているが、地域との協力体制は盛り込んでいない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランの内容を個人ファイルに貼り付け、職員間で共有している。	/	/	/	利用者一人ひとりの個別ファイルに、目標と支援内容を貼り付けて、全ての職員に分かりやすいようにしている。24時間支援記録には、起床時の様子や排泄、アクティビティ、日中夜間の様子の欄があり、その時の利用者が発した言葉や表情のほか、職員の気づいたことなどを記録に残すことができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	24hシートに実施の有無をチェックし、支援に繋げている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの様子は24hシートに、身体的なことは健康チェックシートに記載している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	24hシートに言動などは記録しているが、工夫やアイデアはあまり記載していない。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年に1度見直しを行ったり、状態の変化に応じて見直しをしている。	/	/	/	6か月に1回を基本として、介護計画の見直しをしている。24時間シート等でサービスの実施状況を確認しながら、毎月担当職員を中心に利用者の現状を確認するなどのモニタリングを行い、記録に残している。また、利用者の状態の変化に応じて、随時計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを月に1回行い、現状を確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があった場合、随時、本人・家族と話し合い状態に合った計画を新たに作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1度のユニット会や、緊急案件がある場合は即座に、カンファレンスを行っている。	/	/	/	月1回ミーティングを実施するとともに、終了後にユニット会議を開催し、職員間で活発な意見交換が行われている。また、事前に会議の開催日を決めるとともに、全ての職員が参加しやすいように、夕方の時間帯に開催をしている。さらに、会議の議事録を作成するとともに、職員に確認してもらうことができている。加えて、日々の申し送り時等を活用して、重要事項等は主任から口頭で再度伝えている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	月1度の会議で情報の伝達が行っているが、まだまだ、積極的な意見交換が出来ているとは言えない。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月第1または、第2水曜日の18:30～と決められており、職員全員参加する事となっている。勤務表にも記載し、職員は把握している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作製し、確認している。また、主任が伝達をしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌や申し送りで伝達しており、連絡ノートに記載したことも確認し、共有している。	/	/	/	日々の申し送りを実施して、口頭で情報伝達を行うとともに、日誌や申し送りノートを活用して、職員間で情報共有をしている。また、申し送りノート等には、コルセット装着方法を絵付きで解説したり、塗り薬をつける部分を赤字で記載したりするなど、職員の工夫を凝らした伝達内容が、詳細に記録されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌や申し送りで伝達しており、支援に関する情報は連絡ノートに記載し共有している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望は聞かすが、外出に関することは殆ど出来ておらず、一人ひとりのしたいことを叶える事は出来ていない。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は利用者自身がしたいことや、選んで自己決定できることを尊重した支援に取り組んでいる。また、調査調査日には、パンの訪問販売の来訪があり、男性利用者が小走りに出て来て、好きなパンを買っている様子を見ることができた。さらに、職員は利用者への声かけを重視するとともに、利用者の表情を確認しながら、楽しみや喜びにつなげる支援に努めている。加えて、コロナ禍以前は、利用者からの「外に出たい、買い物に行きたい」などの要望が出され、気軽に買い物などに出かけることができていたものの、現在のコロナ禍において、外出制限等があり、実現できていないこともある。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	メニュー表を見て飲み物を選んでもらったり、入浴準備で、洋服を選んだりして頂いている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	個人との会話の中から、思いや希望を聞けるように働きかけたり、自信を持って出来る事を見出せるような支援に取り組んでいる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースや習慣を把握し、それに合わせるように支援するように努めている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	出来る事を手伝って頂き、役割を持ち自信に繋がれるように努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	×	今現在、意思疎通が困難な利用者がいない為。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊敬」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	声のトーンや声掛けの仕方・言葉遣いに気を付け、意識して行っている。	/	○	○	月1回実施するミーティング時を活用して、頻回に職員間で情報伝達を行うとともに、職員への意識付けをしている。日常的に、職員の声のかけ方やトーン、言葉づかいなど、慣れからくる気づかない部分まで気を配るとともに、特に注意を払いながら、排泄時等の利用者の羞恥心へ配慮した対応に努めている。また、居室へ入室する際には声かけやノックを行うとともに、不在時には事前によりピング等にいる利用者の了承を得て、職員は入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	プライドを傷つけないような声掛けをしている。特にトイレへの誘導などには耳元で声をかけるなど工夫している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレに行かれた際には、少し距離をおき見守りをしたり、男性職員に対し抵抗がある場合は、女性職員で対応するなどしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	職員が居室へ入る場合は、声掛けをしたり、ノックをして入室するようにしている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に、プライバシー保護や守秘義務について、研修を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	共同生活と認識しており、個人の有する力を借りて日常生活において手伝って頂いたり、教えてもらったり、互いに良い関係性を築いている。	/	/	/	利用者が他の利用者の車いすを押したり、食事やレクリエーション、散歩時に、利用者同士がお互いに声をかけ合ったりするなど、助け合いや支え合う場面も多く見られる。また、落ちつきのない利用者があるものの、事業所内では大きなトラブルは発生していない。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で、声を掛け合ったり、気遣いをされたりと支え合っていると理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	テーブル席などを工夫し、利用者同士が関わりを持てる工夫をしている。デッキのベンチなども利用し、別ユニットの利用者とも、交流が持てる様に努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルを回避できるように工夫はしているが、不安などが生じた場合は、傾聴し寄り添うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所前に本人やご家族に聞き、把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人やご家族より、聞き取り、把握できるように努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍で外出する機会がない為、オンライン面会をお願いし、関係が途絶えないように支援をしている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	面会を禁止しており、ご家族が訪問することがなくなっている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	利用者の希望通りには、外出が出来ておらず。誕生日などで、ドライブや墓参りなどの支援はしている。	○	×	○	コロナ禍以前は、日常的に、利用者と一緒に買い物に出かけたり、外に出て散歩をしたりすることができていた。現在のコロナ禍において、外出できる機会が減少しているものの、県の感染縮小期となった時期には、九島や三間のコスモス畑を見に行くなど、少しずつドライブを楽しむことができるようになってきている。また、コロナ禍においても、日常的に、テラスや庭先に出て、外気浴や日光浴を行い、少しでも利用者が気分転換できるように支援している。さらに、訪問調査日には避難訓練で外に出た際に、事業所の広い庭を活用して、利用者全員で体操をしたり、大声で歌を歌ったりするなど、笑顔で伸び伸びとした様子の写真を見ることができた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外部からの支援は受けていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	今現在、重度者いない為、取り組めていない。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ禍で、ご家族との外出は出来ない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	利用者の行動や心理状態の原因が何なのかを探り、取り除くように努めている。				事業所では、利用者一人ひとりの「私ができること・できないこと」シートを作成し、利用者のできることや、できそうなことの見守りや待つ介護などの支援に努めている。また、食事の用意や雑巾づくり、洗濯物たたみなど、日常生活において、利用者ができることを手伝ってもらっている。さらに、日々の散歩や体操などを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	レクリエーションや体操・踊り・歌などを取り入れ、維持、向上が出来るように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の出来る事見極めている。また、声掛け・見守りを行いサポートするようにしている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活の中で、把握するように努めている。				訪問調査日には、利用者が作成した手作りのランチョンマットが敷かれたお盆で、利用者が作ったささがきごぼう入りの肉そばが昼食に出され、おしくいただくことができた。また、料理好きの利用者や手先が器用な利用者も多く、日常の家事等を楽しみや役割として、積極的に担ってもらうことができています。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	出来る事を手伝って貰い、役割を持てる支援を行っている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	保育園園児との交流を楽しみにされている。				

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	髪を染めたり、洋服を選び行事に参加されたりと、身だしなみやおしゃれを楽しませている。				職員は、整容の乱れや不潔な装いにならないように気を配り、フォローをしている。また、利用者の毛染めの手伝いをしたり、化粧をしておしゃれを楽しんだりするなど、職員は入居以前の普段通りの生活が送れるように、見守りながら支援をしている。さらに、重度の利用者にも、日中には普段着に着替えてもらうとともに、散髪ボランティアの協力で、利用者の希望どおりの髪型に整えてもらうなど、少しでも自分らしさが保てる支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ボランティア散髪の時などに、好きな髪形を伝えたり、愛用しているカップなどでコーヒーを飲まれるなど、整えられるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選びやすい様にアドバイスをしたり、一緒に選んだりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	状況に応じた洋服を、相談しながら選んでいただいている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声をかけ、プライドを傷つけないように支援している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	以前は、望む所へ行けていたが、今はコロナ禍で行けていない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度者はいないが、ご家族やボランティア散髪の方の協力を得、て本人らしさを保つ工夫を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	旬の食材を使ったり、一緒に調理をすることで、楽しめるように工夫している。				栄養士資格を持つ代表者が、事業所の献立を作成し、利用者に天ぷら揚げや調理の下ごしらえ、盛り付けなどのできることを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。週3回魚の訪問販売があり、その日のメニューには「魚」と記載して、実際に利用者と一緒に魚を選ぶとともに、希望を取り入れた調理方法で提供できるよう工夫されている。メニューには、利用者の好きなお寿司やカレー、エビフライなどを取り入れ、利用者に喜ばれている。野菜などの食材は業者に発注し、届けてもらっている。茶碗や箸、湯飲み、コーヒーカップは、持参した物を使用している利用者があるほか、事業所の使い慣れた専用の物を使用している利用者もいる。利用者の状態に合わせて、トロミ食やきざみ食などの食事形態にも対応している。また、食事の際には、利用者全員がリビングに出て、職員と和やかに会話などをしながら、一緒に食事をしている。さらに、介助が必要な利用者には、職員がゆっくりと丁寧な対応を行う様子を見ることができた。加えて、申し送りやユニット会議等を活用して、職員間で食事の様子を報告しながら話し合い、栄養の偏りがない食事が提供できるよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理の一部を手伝って貰ったり、後片付けを手伝って貰ったりしている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理や後片付けを手伝って貰うことで、自信につながり、自ら声をかけて頂くこともある。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に、本人・ご家族より聞き取りをし、リストを作成して、職員が把握できるようにしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	メニューは決まっているが、旬の物を取り入れ季節感を出したり、畑で収穫したサツマイモを見て昔話が出たりと工夫している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	使い易い食器や形態を工夫し状態に合わせている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みの茶碗や湯飲みなどを使って頂いたり、状態に合わせて、使い易い物に変更したりしている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒にテーブルを囲み、様子を見ながら、必要に応じてさりげなくサポートを行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重傷者はいないが、調理の音やにおい等で、食事の時間が近くなると思える雰囲気作りを行っている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量などを把握し水分や食事量が少ない場合は、補助食品などを使い、確保できるように取り組んでいる。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	補助食品を利用し食事量の確保や、ゼリー飲料などで複数回水分補給が出来るように取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理方法は、職員間でアドバイスしたり、調べたりしている。献立は栄養士により、バランスを考えて作っている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材は買った日付けを記入し早めに使用するようになっている。食器や物品はハイター消毒・日光消毒を行い、あんぜんに気を付けている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科往診の際に、口腔ケアの必要性や重要性を指導して頂いたり理解している。				事業所には、週2回歯科医の往診があり、急な痛みや義歯の不具合などが見られた場合には、その場に対応してもらうことができる。また、往診時には、職員が立ち合い、歯科医等から聞いた口腔内の状況を記録に残し、職員間で情報を共有している。さらに、毎食後に、職員は声かけをして、利用者は口腔ケアを行うとともに、歯科衛生士からの指導を反映しながら、口腔内の清潔保持に努めている。加えて、利用者一人ひとりの状態に合わせて、口腔ケア用品を使用することができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科往診時の記録があり、状態の把握に努めている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士により、指導をして頂いている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、義歯の手入れ・うがいの誘導、就寝前は必ず、義歯を外し、洗浄剤につけている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケアのチェックを記載し利用者に合わせて、口腔スポンジを使い舌の手入れもやっている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	歯科医に相談し訪問診療を受けている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修などで、理解はしている。状況に合わせて日中は、リハビリパンツを使用し、トイレでの排泄、夜間はポータブルトイレでの排泄を行ったり、オムツでの対応にするなど、意思疎通の取れる方は相談している。				事業所では、利用者がトイレで排泄ができることを基本として、支援に努めている。利用者の状態に応じて、パッドや夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もあり、適切な排泄用品が使用できるように、職員間で話し合いをしている。また、紙パンツやおむつなどの使用時には、家族に説明を行うとともに、承諾を得てから使用をしている。さらに、健康チェックシートや日誌等に記録をして、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員は声かけやトイレ誘導をすることができている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	不眠・食欲の低下・不穏など、日中の様子を通し、看護師から説明を受けて理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	健康チェックシートや日誌に記載し、排泄のパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	健康状態や状況に応じて、見直しを行っている。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給・運動などを取り入れたりが、改善されない場合は、かかりつけの医師に相談している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間を決めての声かけ・誘導している。また、表情や仕草などを見て誘導したりしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族に相談し、必要性を説明。本人の意向に沿ったものをまずは、使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中はリハビリパンツ、夜間はオムツと適時、使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	運動や水分補給など努めているが、何日も無排便な状態のときは、緩下剤に頼ることもある。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴できる時間は決まっているが、入浴の有無や希望を伺い、湯温の調整など行って習慣に添って入浴できるように支援している。		◎	○	事業所では、利用者が入浴できる日にちや時間帯を職員の勤務体制で決めることがあるものの、湯温や湯船に浸かる時間、好みのシャンプーやリンスの使用など、可能な範囲で利用者の習慣を尊重した支援に取り組んでいる。また、利用者は、週2回を基本として、入浴をすることができる。さらに、「すばる」ユニットにはリフト浴が完備され、利用者の状態に合わせて、「ほたる」ユニットにある個別浴槽と使い分けを行い、重度な利用者も湯船に浸かれるように、協力をしながら支援することができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	入浴時、その人のペースでゆっくりと入浴できるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る部分はご自分でして頂き、見守りをし、出来ない部分だけ支援し、安心して入浴できるようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いはせず、声掛けを変えてみたり、時間を置いてみたりして会話の中から探り、工夫している。入浴カレンダー作成をし工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行い、状態の確認を行っている。看護師に、相談することもある。				

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者が1時間毎に訪室し確認している。申し送りや日誌等でも確認ができ、把握している。	/	/	/	日中活動量を増やしたり、日光浴をしたりするなど、職員は利用者が夜間に良眠できるように努めている。また、隣の居室の音が気になる場合には、ベッドを壁から離す工夫を試みるなど、快適な環境づくりに努めている。中には、眠剤を服用している利用者があるものの、医師と相談しながら、服薬の量を調整している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やす工夫や、日光浴などをして整える取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中、活動的に過ごされてもなかなか、改善が見られない場合は、主治医と相談をしながら薬の調整を行っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の意思に任せていることが多い。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族に手紙やハガキを書いたり、携帯電話で家族と連絡を取り合っている方もおられる。ポストへ投函する支援を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	文字が書きにくい利用者さんは、塗り絵等を塗って頂いたり、返事を書くようにハガキを用意したりして声を掛け支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話がかかってきた場合は、居室にてゆっくり話をしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙・ハガキなどはすぐに本人にお渡しし、返事は職員が投函している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	要望があれば、職員が取り次ぎ協力して頂いている。ご家族さんには何時かけても良い事を伝えている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解はしているが、本人が所持して使うことが出来ていない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナ禍で外出する機会がなく、出来ていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ禍で外出する機会がなく、出来ていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金の所持はしていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時、家族と相談しホームでおこずかいを管理している。必要なものがあれば、その中から購入している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	現金出納帳で管理し、毎月収支をコピーしてご家族に送付している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	オンライン面会・Lineでの写真提供し、取り組んでいる。	/	◎	◎	コロナ禍において、事業所では外出や面会などの制限が設けられることがあるものの、可能な範囲で、利用者や家族の要望に、迅速かつ柔軟に対応している。また、お墓参りを大切にしている利用者には、家族の協力を得て、病院受診後に立ち寄ってもらったり、家族の代わりに職員が病院受診の同行支援をしたり、希望の場所へドライブに出かけるなど、要望に合わせた支援をすることができている。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先の花壇には、季節ごとの花を植えており、玄関には、時期に応じた飾り付けを心掛けている。	◎	○	◎	広い芝生の庭先にある事業所の玄関の両端には、季節の花を植えた花壇があるほか、スロープが設置されている。また、訪問調査日には、利用者と一緒に作った大きなクリスマスリースがドアに掛けられ、より良い雰囲気づくりがされていると感じることができた。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節に応じた掲示物を壁に掲示したり、ソファを置きゆったりとくつろげる工夫をしている。廊下の突き当りには、図書コーナーがあり、好きな本を読むことも出来る。	◎	◎	◎	リビングにある大きな窓からは、広い庭が見渡せるほか、真向かいには、宇和島城の絶景を眺めることができる。共用空間には、利用者と一緒に作ったクリスマスツリーや生花を飾るなど、利用者は家庭的な雰囲気の中で、テーブルやソファなどの思い思いの場所でくつろぐことができている。また、掃き出し窓とデッキがつながっており、利用者は自由に出入りすることができる。さらに、事業所内は整理整頓が行き届き、利用者に安心して気持ちよく過ごしてもらえるような空間づくりをしている。加えて、加湿器や空間除菌装置が設置され、快適な環境となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日、掃除を行い清潔に過ごして頂けるようにしている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に応じた飾りつけや、野菜つくり、花の水やりなどを採り入れ心地よく過ごせるように工夫している。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファでくつろがれたり、デッキのベンチでくつろがれたり、思い思いに過ごされている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	扉やカーテン等があり、直接見えないう工夫している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人・ご家族と相談し、入所前に使っていた、家具や衣類・仏壇などを置き、居心地よく過ごして頂く工夫をしている。	◎		◎	居室には、使い慣れた物などを持ち込むことができ、感謝状や家族の写真、ひ孫の命名色紙、テレビ、テーブル、いす、小物類などが持ち込まれ、一人ひとり合わせた個性のある空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	浴室・トイレ等はプレートで表示しており、分かりやすい工夫をしている。廊下には手すりも設置されており、安全に移動が出来るように配慮している。			○	事業所では利用者が迷わないように、居室に名前を大きく表示するとともに、トイレや浴室も分かりやすくプレートで表示されている。また、車いすや歩行器などの福祉用具を使用している利用者が、安心安全に移動できるように、動線を確保するなど、環境整備が行われている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	洗剤や消毒などは、鍵のかかる所で保管し、目の届かない工夫をしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や図書コーナーで自由に見たりすることが出来、夏場は、共有スペースに麦茶などを用意し好きな時に飲むよう工夫している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は、施錠をしておらず、玄関はチャイムを設置・ユニット間も自由に行き来ができ、閉塞感はないと思われる。	◎	◎	◎	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中には玄関等の施錠をしておらず、利用者は自由に出入りすることができる。また、訪問調査日には、デッキを活用して、併設しているグループホームへ行き、利用者同士で交流をしているほか、パンの移動販売の来訪時には自由にパンを買いに出る利用者の姿を見ることができた。さらに、夜間は防犯のため、玄関等の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時に家族に説明し、理解を得ている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	施錠なく、チャイムで対応している。また、他ユニットとも連携が取れている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシートやアセスメントで把握しており、病状に変化があった場合は申し送りやカンファレンスを行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックを行い、健康チェックシートに記載し、特変あれば、看護師に相談、日誌にも記載している。				
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	ユニットに看護師が配置されており、気になることがあれば、かかりつけ医に相談できる体制を整えている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人・家族に確認し希望に沿うよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族に確認を取り、協力医と適切な医療が受けられる様、支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診に家族も同行して頂き、同行できない場合は、結果を報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	状態がわかるように、口頭で伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	病院での面会など、制限がある為、行えていないが、退院前のカンファレンスやTELで相談は行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	通院などには付き添っているが、関係づくりはできていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	ユニットに看護師が配置されており、気になることがあれば、かかりつけ医や協力医に相談できる体制を整えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力医や看護師にはいつでも相談が出来、連携は取れている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルチェックで少しの変化に気づき早めの治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	服薬表を作成しており、薬品名・目的・用量・用法は理解できているが、副作用についてはあまり、理解が出来ていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝・昼・夕・就寝前と個別に袋を作り、名前を表示して、飲み忘れや誤薬を防いでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬変更時は、特に注意し内服して頂き、他職員とも確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化は記録に残し、状態や経過に応じ、協力医に相談している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時におおむねは説明しているが、状態に変化があった場合その都度、家族と医師の話し合いの場を設け、家族の意向や方針の確認を行っている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における対応に係る指針」「重度化及び看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明をしている。利用者の状態の変化等に応じて、利用者や家族に説明をするともに、医師や関係者を交えて話し合い、方針を共有している。また、家族からの要望に応じて、協力医と連携を図りながら、これまでも24時間体制で積極的に看取り支援を実施している。さらに、代表者の家族が看護師として勤務し、敷地内にある住居に住んでいることもあり、職員の安心感にも繋がっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	必要に応じカンファレンスを行い、情報の共有に努めている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	重症化・終末期の対応に経験が浅く、不安を感じている職員は少ない。連絡や相談できる体制を整え、常に声掛けや説明を行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に説明をし、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	必要に応じカンファレンスを行い、情報の共有に努め方針を伝えている。協力医や訪問看護を導入し、医療との連携を取りながら本人やご家族を支えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族の思いに耳を傾け、それぞれの立場で心理的支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修で学ぶ機会があり、看護師からも指導がある。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修で学んだことをマニュアル化しミーティングなどで伝達している。感染予防用のセットも準備出来ており看護師の指導もある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ネットなどを通して、情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	手洗い・マスク着用・消毒など行い、ワクチン接種など徹底している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	各ユニット・玄関に消毒液・マスクを設置しており、使用の徹底、また、来客者にもお目買いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	現状を正直に伝え、関わって頂くように関係を築いている。				コロナ禍以前は、笑ちゃんカフェや敬老会、お花見、花火大会などの様々な行事に、家族の参加協力を得て開催することができていたが、現在のコロナ禍において、家族への案内や呼びかけを中止している。代表者は、早く元通りの生活が送れることを強く願っている。また、毎月発行する事業所便りの送付に合わせて、担当職員が手紙を添えて、家族に利用者の様子を伝えている。コロナ禍において、オンラインでの面会に対応するとともに、家族の要望から、SNSの機能を活用して写真を送付し、大変喜ばれている。さらに、事業所便りに、行事報告や次回の予定、職員の異動や退職などを掲載し、事業所内の出来事を伝えることができています。加えて、職員は家族から、電話連絡時や手紙でのやり取りを活用して、意見や要望を聞くよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	気軽に来て頂けるように工夫はしているが、コロナ禍で面会などが出来ていない。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナ禍で、出来ていない。		◎	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のあかり便りやご家族への手紙などで報告出来ている。		◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	リモート面会時などで、気になっている事などを聞き、近況報告をしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所までの生活や性格・家族との関係性を伺い理解し、支援の方法を詰めて支援に繋げている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	コロナ禍で家族会なども開催が出来ておらず、その都度の報告が出来ていない。		◎	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ禍で運営推進会議・笑ちゃんカフェなど、家族が交流する機会も持つ事が出来ていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについては、入所時や手紙などを利用し、納得して頂いている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	玄関先ではあるが、来られた時に話を伺ったり、毎月の手紙などで連絡をとるようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者、または施設長が説明を行い、必要に応じて面談などを行い理解して頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に説明をし、ご家族に理解して頂いている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	文書にて報告をし、同意書を交わしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立する時より、地域住民には説明会を開くなどし理解を得ている。	/	◎	/	コロナ禍以前は、地域の運動会や文化祭、清掃活動など、利用者と一緒に地域行事に参加し、地域住民と交流することができていた。代表者は、コロナ禍前のような地域との交流の再開を願っている。また、コロナ禍においても、県内の感染縮小期には、保育園児に芋掘りに参加してもらうほか、ハロウィンの時には踊りを披露してもらうなど、その姿を利用者は怒越しに目を細めながら見学することができ、喜んでいる。さらに、後日お礼にと園児が事業所へ花を届けに来てくれ、利用者が直接手渡して受け取る様子の写真を見ることができた。加えて、事業所便りを地区の回覧板で回してもらい、情報を発信することもできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	以前は、町内清掃などに参加し、行事などの案内を出してはいたが、今は出ていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の協力は得られているが、地域の方の協力を得るのは難しい。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近隣の保育園児が、散歩に来たりはしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	月に一度、あかり便りを配布している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	月に一度、ボランティア散髪の実施を受けている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	施設外への支援は出ていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	行事やイベント等、案内を出していたが、今は出ていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	書面開催で参加して頂き、アンケート用紙を返信して頂いている。	/	○	○	運営推進会議は、家族や地域住民、自治会長、民生委員、小学校、保育園、他の介護サービス事業所、市担当者等の参加を得て開催をしている。現在のコロナ禍において、会議は書面開催となっているものの、アンケート用紙を配布して、意見などの返信をってもらうことができている。また、家族からは、「家族は会えないが、その分職員さんがいろいろ工夫しながら利用者を楽しませてくれている」などの感謝の言葉が出されるとともに、地域住民や地権者からは労いの言葉が寄せられている。さらに、出された意見等には、書面等で改善策や結果を報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価が出た際、目標達成の計画を複製し報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	一方的な報告ではなく、意見や提案を頂き取り組み努力をしている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	テーマやメンバーは決めておらず、次回の日程のみ伝えている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	開催の都度、議事録作成し、高齢者福祉課に提出している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	毎年、理念に基づくユニットの支援目標を職員全員で立てて、取り組む様になっている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関に理念を掲げ、各ユニットのスタッフルームに目標を掲げ目につくようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員の力量や、各職種に合わせて研修を進めている。				代表者は、事業所に来訪して滞在することが多く、職員と顔を合わせて話しをする機会があり、職員と同じ目線で対話し、対等な気持ちで職員と接することができるよう努めている。また、法人・事業所として、誕生月には職員にリフレッシュ休暇を与えるなど、働きやすい環境づくりに努めている。コロナ禍において、外部研修へ参加することは遠ざかっているものの、内部研修等を実施し、職員のスキルアップに努めている。さらに、訪問調査時の職員の聞き取りから、「働きやすい職場環境となっている」などの話しを聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	社内での研修は取り組めるよう努めてはいるが、思うように出来ていない。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年度末に面談を行い、個々の勤務状況や努力を把握し、モチベーションの向上に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ禍で同業者との交流を持つ機会が少ないが、オンラインで行われる市の連絡会などには、参加している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	誕生月にリフレッシュ休暇を取得できるようにしている。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修を受け、どのような行為が虐待に当たるのか、理解している。				内部研修の議題に挙げて、職員は学ぶ機会があり、虐待防止の徹底に努めている。不適切な行為など、気になる言動が見られた場合には、管理者から該当職員にその場で話すとともに、注意喚起をしている。また、後で職員への指導や注意喚起を行うと、該当職員自身が気づいていない場合や、あいまいになってしまう場合があり、その場で伝えるようにしている。さらに、職員は、不適切な行為が見られた場合などの対応方法や手順を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	介護の現場に入り、報告を受けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員との会話やケアのやり方などに意識を向けて、不適切なケアと判断した場合は、施設長・管理者に報告している。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務状況を把握し、ストレスや疲労がないか注意を払っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	利用者の安全を守る為、身体拘束となる対応をする場合、ご家族に説明し同意を得ている。職員も確認を行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	状況に応じて、身体拘束の必要性を確認する為、ミーティングなどで話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	施設長や身体拘束の要望は、ご家族からは出ていない。				

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	成年後見制度を利用している方が居られ、学ぶ機会がある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	利用者・ご家族からの相談がない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要に応じて情報提供は行っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の連絡体制は整備しており、かかりつけ医にも連絡がつくような体制をとっている。マニュアル作成はしていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	AEDや救命措置の講習は受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットに記載して、職員間で検討、話し合いを持っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の考えられるリスクや危険について、話し合い、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルはないが、家族とのやり取りは記録し、まとめている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	地域・ご家族からの苦情はきてはいないが、会話の内容などを記録し、必要があれば、市町村に相談する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情がない為、対策案の検討を行っていないが、苦情が発生した場合は、速やかに回答し改善を行っていく。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	×	以前は、2ヶ月に1度、介護相談員が来て機会を設けていたが、コロナ禍で、機会がなくなっている。			○	日常生活の会話の中で、職員は意見や要望を引き出せるような雰囲気づくりを行い、利用者から要望等を聞いている。出された意見には、可能な限り、迅速に対応をしている。コロナ禍において、家族が来訪できる機会は激減しているものの、電話連絡時や手紙の送付時等を活用して、意見や要望を聞くように努めている。また、管理者は現場に出て、職員と一緒に働いていることから、日常的に職員の意見や要望を聞くことができている。出された意見はすぐ代表者に伝えるとともに、対応可能なことは、その日のうちに実行に移している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	家族会の開催など出ていない。運営推進会議は、書面開催が多く、書面で意見や要望を聞いている。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初のみで、適時は行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	常に現場に入り、日常の仕事内容を確認し職員の状態を把握している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場に入り、状況把握に努め、職員の意見や提案を聞いている。			◎	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価の説明を行い、職員全員で1人1人自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価の作成は、職員全員で取り組むことができています。運営推進会議の中で、サービスの評価結果や、目標達成計画の取組み状況などを報告しているものの、会議に参加していない家族にまでは、事業所の取組み状況を伝えることができていないため、簡単にまとめた評価結果等を送付するなど、全ての家族に周知できる方法を職員間で検討することを期待したい。また、今後は家族や関係者等に評価結果を周知するとともに、意見を反映させながら、さらなる事業所の発展に繋がるような取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の内容・結果は、職員間で確認し共有している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組める内容・実現できる目標を設定し、全体で取り組めるようにしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議メンバー、ご家族には、郵送し説明、周知している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、周知できている。				事業所では、日中や夜間などを想定した避難訓練を実施している。また、コロナ禍以前は、地域の防災訓練に参加協力することもできていた。さらに、消防署や地域の消防団と連携を図ることができていた。事業所として、継続して地域住民との関わりが持てるよう努めているものの、現在のコロナ禍もあり、進展が難しくなっている。今後は、利用者の安心安全な生活が送れるように、少しずつ協力体制が構築できることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間帯を想定しての訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災委員があり、定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	近隣住民や他事業所との連携は図れていない。地域の消防団や消防署との連携は取れている。コロナ禍で訓練を見て頂いての評価や指導を受けることが出来ない。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	共同訓練はないが、市の開催する訓練のうち情報伝達訓練のみ参加している。また、市の災害ネットワークには加入している。原子力災害の福祉施設の受け入れ体制は、整えている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	認知症に関する情報発信や啓発活動は取り組めていない。				事業所便りを地域に回覧し、毎月1日を相談日と記載し、周知案内をしている。また、法人・事業所として開催する「笑ちゃんカフェ」には、家族や地域住民、他の介護サービス事業所、介護支援専門員等が参加し、意見交換や相談対応をすることができていたが、現在のコロナ禍において、利用者や職員のみでの開催となっている。また、病院の看護師や就労している障害者、一般の介護従事者など、事業所見学の申し込みも多く、コロナ禍を見計らいながら、現在は可能な範囲で対応をしている。さらに、代表者は長年にわたり介護に従事している経験から多くの人脈が豊富で、医療や福祉、学校等との連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	施設見学はいつでも受けており、電話での相談・問い合わせにも、対応出来る様に努めている。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	以前は、解放し交流の場所として活用していたが、今では、保育園児のお散歩コースになっているだけ。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍で、受け入れが出来ていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	通院や相談を通して、協力医や専門機関との連携を図るようにしている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 12 月 8 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3890300068
事業所名	グループホームあかり
(ユニット名)	ほたる
記入者(管理者)	
氏名	森田 みちよ
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 5 日

<p>【事業所理念】</p> <p>共に生きる</p> <p>【ユニット目標】</p> <p>共に寄り添い 楽しく笑顔の和 ときにはぶつかり合いながらも、 寄り添い、互いに思いやり、信じ あえる関係を築いていきたい。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①外部評価結果や目標達成計画による事業所の取り組みについて、家族や地域住民への周知が不十分である。 ○運営推進会議での説明・報告は継続出来ており、家族にも書類を同封し理解して頂いているが、地域住民に対しての周知が出来ていない。 ②事業所が行っている月に1回の相談支援や施設の見学の受け入れについて、地域住民への周知が不十分である。 ○ポスター制作が出来ておらず、広報を配布はしているが、その際に、口頭での説明も出来ていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は市内を一望できる高台にあり、リビングの窓から宇和島城の絶景を望むことができる。敷地内にある広い芝生の庭が特徴的で、その側らにある畑には季節の野菜を植え、収穫期には保育園児を招いて芋掘りを一緒に楽しむことができ、今回も収穫した芋を使用して、モンブランケーキを利用者と一緒に作り、笑ちゃんカフェで味わうことができた。笑ちゃんカフェは、お品書きからテーブルクロス、食器にまでこだわり、本格的なカフェとなっているものの、現在のコロナ禍において、外部からの参加の呼びかけを控えている。また、事業所では、利用者の要望に耳を傾け、代表者は安全さえ確認できれば、躊躇なくOKサインを出し、職員は早期の実行に移すとともに、利用者自身ができることや楽しめること、笑顔を大切に考えて、職員全員が楽しみのある生活が送れるような支援に取り組んでいる。代表者と管理者、職員がともに会話を交わしながら、利用者を尊重した丁寧な支援が行われている様子をつかがうことができた。世代交代を考えている代表者と、受け継ぐ息子夫婦は、「職員の手本となるよう、これから何事にも挑戦していきたい」などと謙虚に話されていた様子が印象的であった。さらに、職員の聞き取りから、「利用者と一緒に楽しませてもらっている、利用者の笑顔に助けられている」などの意見を聞くことができた。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	会話やケアを通して把握に努めている。	○	/	◎	日頃から、職員は利用者との会話を多く持つよう努めており、ケアを通して思いなどを聞いている。また、お茶タイム時に、利用者から「お寿司を食べたい、おはぎが食べたい」などの要望が出された場合には、急きょ献立を変更する対応を取ったり、おやつにおはぎを提供したりするなど、可能なことは迅速に対応し、利用者等の満足度に繋がっている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族からの情報や、本人の表情や仕草から、把握に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会制限のある中、家族との情報交換は難しい。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	24hシートにや日誌などで、思いを共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	表情や仕草からも、推察するよう努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時にアセスメント作成をする際、本人や家族から情報を頂き、把握している。	/	/	○	入居前に、管理者等は利用者の自宅を訪問し、利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き、情報を把握している。また、退院カンファレンスに職員が参加するとともに、介護支援専門員や医療関係者から、身体状況等の情報収集に努めている。さらに、把握した内容はアセスメントシートに記載し、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	会話の中で気付いたことなどを、24hシートに記録している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	毎日2回の申し送りや、24hシートなどで把握できるようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りで変化や違いを共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	健康チェックシート・24hシートで、状態変化を確認し、把握できるようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントや24hシートを利用し、モニタリング・カンファレンス等で、何が必要か検討している。	/	/	○	事業所独自のアセスメントシートの情報をもとに、事前に利用者の思いや意見を聞き、ミーティング後に実施するユニット会議を活用して、利用者の視点に立って、職員間でより良いサービス等を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の申し送りや、月1回のモニタリングを通して、良く話し合い検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を明確にし、目標を決めケアプランに記載している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	認定更新時に本人や家族から意向を伺い、その内容をケアプランに反映している。				入居時には、「事業所に慣れてもらう」などを目標に入れた介護計画を作成している。また、介護計画の更新時には、事前に利用者から意見を聞くほか、主治医等のアドバイスをもらい、アセスメントシートの情報と、24時間シート等でサービスの実施状況等を確認しながら、家族と職員を交えて話し合い、計画作成担当者を中心に計画を作成している。さらに、計画には、利用者や家族の意見のほか、職員の意見やアイデアを反映させた内容となるよう努めている。加えて、利用者から出された、「食事を美味しく食べたい」という意見を目標に取り入れて、「①嫌いな食べ物は食べられるように変えて、量を加減する、②見た目も工夫する」などの職員のアイデアが反映された計画を確認することができた。現在のコロナ禍において、家族から電話等で意見や要望を聞いている。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族や関係者との話し合いは、充分ではないが、意見やアイデアは計画書に反映している。	○		○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	各記録やアセスメントで思いを汲み取り、計画に反映させている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族には依頼し、協力して頂き盛り込んでいるが、地域との協力体制は盛り込んでいない。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランの内容を個人ファイル貼り付け、職員間で共有している。				利用者一人ひとりの個別ファイルに、目標と支援内容を貼り付けて、全ての職員に分かりやすいようにしている。24時間支援記録には、起床時の様子や排泄、アクティビティ、日中夜間の様子の欄があり、その時の利用者が発した言葉や表情のほか、職員の気づいたことなどを記録に残すことができている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	24hシートに実施の有無をチェックし、支援に繋げている。					
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	24hシートに言葉・しぐさ・表情・エピソードを細かく記載している。					◎
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	24hシートを活用し、個別に記録しファイルしている。					○
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年に1度見直しを行ったり、状態変化に応じて見直しをしている。				6か月に1回を基本として、介護計画の見直しをしている。24時間シート等でサービスの実施状況を確認しながら、毎月担当職員を中心に利用者の現状を確認するなどのモニタリングを行い、記録に残している。また、利用者の状態の変化に応じて、随時計画の見直しをしている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを月1回行い、現状の確認をしている。					◎
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	現状に変化があった場合、随時、見直し現状に即した、プランを立てている。					○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のユニット会や緊急の案件がある場合は、即座にカンファレンスを行っている。				月1回ミーティングを実施するとともに、終了後にユニット会議を開催し、職員間で活発な意見交換が行われている。また、事前に会議の開催日を決めるとともに、全ての職員が参加しやすいように、夕方の時間帯に開催をしている。さらに、会議の議事録を作成するとともに、職員に確認してもらうことができている。加えて、日々の申し送り時等を活用して、重要事項等は主任から口頭で再度伝えている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ユニット会で、モニタリングを行い、活発な意見交換が出来ている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月第1または、第2水曜日18:30～と決められており、職員全員参加する事となっている。勤務表にも記載し職員は把握している。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成し、確認・伝達して共有している。					◎
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌や申し送りで伝達しており、情報を共有している。				◎ 日々の申し送りを実施して、口頭で情報伝達を行うとともに、日誌や申し送りノートを活用して、職員間で情報共有をしている。また、申し送りノート等には、コルセット装着方法を絵付きで解説したり、塗り薬をつける部分を赤字で記載したりするなど、職員の工夫を凝らした伝達内容が、詳細に記録されている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	家族とのやり取りや、支援に関する情報は、日誌や24hシートに記録し、職員に伝わるようにしている。	○				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望を聞くが、一人ひとりのしたいことを叶えることを、出来る様に努めている。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は利用者自身がしたいことや、選んで自己決定できることを尊重した支援に取り組んでいる。また、調査調査日には、パンの訪問販売の来訪があり、男性利用者が小走りに出て来て、好きなパンを買っている様子を見ることができた。さらに、職員は利用者への声かけを重視するとともに、利用者の表情を確認しながら、楽しみや喜びにつなげる支援に努めている。加えて、コロナ禍以前は、利用者からの「外に出たい、買い物に行きたい」などの要望が出され、気軽に買い物などに出かけることができていたものの、現在のコロナ禍において、外出制限等があり、実現できていないこともある。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	自己決定の場を作っているが、意思伝達や自己決定が出来る方が、少なくなってきた。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人のわかる力に寄り添った支援で、納得いただけるように努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	重症化しつつある利用者が増え、一人ひとりのペースや習慣に合わせての支援が難しくなってきた。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	レクリエーションや会話の中で、思いを引き出す声掛けをしている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や仕草、排泄のサインなど見逃さないように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊敬」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	声のかけ方・トーン言葉遣いを意識して行動している。	/	○	○	月1回実施するミーティング時を活用して、頻回に職員間で情報伝達を行うとともに、職員への意識付けをしている。日常的に、職員の声のかけ方やトーン、言葉づかいなど、慣れからくる気づかない部分まで気を配るとともに、特に注意を払いながら、排泄時等の利用者の羞恥心へ配慮した対応に努めている。また、居室へ入室する際には声かけやノックを行うとともに、不在時には事前にリビング等にいる利用者の了承を得て、職員は入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	プライドを傷つけないような声掛けをしている。特にトイレ誘導などには、耳元で声をかけるなど工夫している。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	トイレの際には、少し距離をおいて見守ったり、カーテンを開けるなど配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	職員が居室へ入る場合は、声掛けをしたり、ノックをして入室するようにしている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に、プライバシー保護や守秘義務について、研修を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	共同生活と認識しており、個人の有する力を借りて、日常性活において手伝って頂いたり、教えたもらったり、お互いに良い関係性を築いている。	/	/	/	利用者が他の利用者の車いすを押したり、食事やレクリエーション、散歩時に、利用者同士がお互いに声をかけ合ったりするなど、助け合いや支え合う場面も多く見られる。また、落ちつきのない利用者があるものの、事業所内では大きなトラブルは発生していない。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士、声を掛け合ったり、気遣いをされたりと支え合っていると理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し、トラブルや孤立しないように、職員が間に入り、関わり合い支え合えるような支援に努めている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	声掛け・傾聴し他利用者には不安や支障が生じないように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所前に本人や家族に聞き把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族より聞き取り、把握できるように努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍で、外出する機会がない為、オンライン面会をお願いし、関係が途絶えないように支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	面会を禁止しており、家族が訪問することがなくなっている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍で、外出する機会がない為、デッキでの体操やレクリエーションを他ユニットと行い、戸外での時間を取るように取り組んでいる。	○	×	○	コロナ禍以前は、日常的に、利用者と一緒に買い物に出かけたり、外に出て散歩をしたりすることができていた。現在のコロナ禍において、外出できる機会が減少しているものの、県の感染縮小期となった時期には、九島や三間のコスモス畑を見に行くなど、少しずつドライブを楽しむことができるようになってきている。また、コロナ禍においても、日常的に、テラスや庭先に出て、外気浴や日光浴を行い、少しでも利用者が気分転換できるように支援している。さらに、訪問調査日には避難訓練で外に出た際に、事業所の広い庭を活用して、利用者全員で体操をしたり、大声で歌を歌ったりするなど、笑顔で伸び伸びとした様子の写真を見ることができた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外部からの支援は受けていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	戸外での日光浴などを取り組んだりしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナの為、家族などの支援を受けられない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者の行動や心理状態の原因がどこにあるのか、背景を探り、取り除くケアが出来る様に努めている。				事業所では、利用者一人ひとりの「私ができること・できないこと」シートを作成し、利用者のできることや、できそうなことの見守りや待つ介護などの支援に努めている。また、食事の用意や雑巾づくり、洗濯物たたみなど、日常生活において、利用者ができることを手伝ってもらっている。さらに、日々の散歩や体操などを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	レクリエーションや体操・踊り・歌などを取り入れ維持・向上出来る様に取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事、出来そうなことを見極め、声掛けや見守りを行いサポートしている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活の中で、把握するように努めている。				訪問調査日には、利用者が作成した手作りのランチョンマットが敷かれたお盆で、利用者が作ったささがきごぼう入りの肉そばが昼食に出され、おしくいただくことができた。また、料理好きの利用者や手先が器用な利用者も多く、日常の家事等を楽しみや役割として、積極的に担ってもらうことができています。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	好きな歌番組をみたり、レクリエーションを通して、楽しみが持て、出来る事を手伝って頂くことで役割が持てるように取り組んでいる。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域での役割や出番は難しい。保育園児との交流を楽しみにされている。				

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好きな洋服を選んだり、毛染めをしたりと身だしなみやおしゃれを把握している。				職員は、整容の乱れや不潔な装いにならないように気を配り、フォローをしている。また、利用者の毛染めの手伝いをしたり、化粧をしておしゃれを楽しんだりするなど、職員は入居以前の普段通りの生活が送れるように、見守りながら支援をしている。さらに、重度の利用者にも、日中には普段着に着替えてもらうとともに、散髪ボランティアの協力で、利用者の希望どおりの髪型に整えてもらうなど、少しでも自分らしさが保てる支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の希望に沿った服装や散髪時の髪形など好みに整えられるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節に合った服装を選んでもらうように声掛け、支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	状況に応じた洋服を、相談しながら選んでもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声をかけ、プライドを傷付けないように支援している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	以前は、望むところへ行けていたが、今はコロナの為行けてない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ボランティア散髪の協力を得て、本人らしさが保てる支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	旬の食材を使ったり、一緒に調理することで楽しめるようにしている。				栄養士資格を持つ代表者が、事業所の献立を作成し、利用者に天ぷら揚げや調理の下ごしらえ、盛り付けなどのできることを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。週3回魚の訪問販売があり、その日のメニューは「魚」と記載して、実際に利用者と一緒に魚を選ぶとともに、希望を取り入れた調理方法で提供できるよう工夫されている。メニューには、利用者の好きなお寿司やカレー、エビフライなどを取り入れ、利用者に喜ばれている。野菜などの食材は業者に発注し、届けてもらっている。茶碗や箸、湯飲み、コーヒーカップは、持参した物を使用している利用者があるほか、事業所の使い慣れた専用の物を使用している利用者もいる。利用者の状態に合わせて、トロミ食やきざみ食などの食事形態にも対応している。また、食事の際には、利用者全員がリビングに出て、職員と和やかに会話などをしながら、一緒に食事をしている。さらに、介助が必要な利用者には、職員がゆっくりと丁寧な対応を行う様子を見ることができた。加えて、申し送り時やユニット会議等を活用して、職員間で食事の様子を報告しながら話し合い、栄養の偏りがない食事が提供できるよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	メニューは決まっているが、ごぼうのささがきなどを手伝って頂いたり、食器拭きをして頂いたり、共に行っている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	同じ利用者ばかりが手伝うのではないように、気を配り自信や達成感が得られるよう、支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に本人や家族より聞き取りをし、リストを作成して表示している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	旬の食材やホームの器で取れた食材を使い工夫している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	食べやすい形状にしたり、軽い食器などを使用し、工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個人の物を使ったり、使い易い食器に変更したりして、使い易い物を提供している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒にテーブルを囲み、様子を見ながら必要に応じてさりげなくサポートをしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	オープンキッチンで音やにおいを感じ取れる。メニュー掲示し献立を伝えている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事が少ない時は、栄養補助食品を提供し、水分はコーヒータイムなどを取り入れ、確保できるようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	補助食品の提供し食事量の確保や時間にこだわらず水分補給が出来る様に取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士がメニューを作成しており、調理方法などは、職員間でアドバイスをしたりしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	物品の日光消毒やハイター消毒をこまめに行っている。食材は、発注日が決まっており、必要な分を発注している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科往診の際に、口腔ケアの必要性や重要性を指導して頂いたり理解している。				事業所には、週2回歯科医の往診があり、急な痛みや義歯の不具合などが見られた場合には、その場に対応してもらえることができる。また、往診時には、職員が立ち合い、歯科医等から聞いた口腔内の状況を記録に残し、職員間で情報を共有している。さらに、毎食後に、職員は声かけをして、利用者は口腔ケアを行うとともに、歯科衛生士からの指導を反映しながら、口腔内の清潔保持に努めている。加えて、利用者一人ひとりの状態に合わせて、口腔ケア用品を使用することができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科往診時の記録があり、上程の把握に努めている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士より、指導をして頂いている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、義歯の手入れ・うがいの誘導、就寝前は必ず義歯を外し、洗浄剤につけている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	磨き残しなどは職員が行い、口腔内の清潔保持に努めている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	歯科医に相談し、訪問診療を受けている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修などで、理解はしている。状況に合わせて日中はリハビリパンツを使用し、トイレでの排泄、夜間はポータブルトイレでの排泄を行ったり、オムツでの対応にするなど、意思疎通の取れる方は相談している。				事業所では、利用者がトイレで排泄ができることを基本として、支援に努めている。利用者の状態に応じて、パッドや夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もあり、適切な排泄用品が使用できるように、職員間で話し合いをしている。また、紙パンツやおむつなどの使用時には、家族に説明を行うとともに、承諾を得てから使用をしている。さらに、健康チェックシートや日誌等に記録をして、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員は声かけやトイレ誘導をすることができている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	不眠・食欲低下・不穏など、日中の様子を通し、看護師から説明を受けている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	健康チェックシート・日誌に記載し排泄のパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	健康状態や状況に応じて、見直しをしている。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給・運動などを取り入れたりしているが、改善されない場合は、かかりつけ医に相談している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間を決めての声掛けや誘導している。また、表情や仕草などを見て誘導したりしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族に相談し、必要性を説明。本人の意向に沿ったものをまずは使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中はリハビリパンツ、夜間はオムツと適時使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	運動や水分補給に努めてはいるが、何日も無排便な状態の時は、緩下剤に頼ることもある。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	毎日入浴したい利用者もいるが、希望に沿っての入浴ができていない。		◎	○	事業所では、利用者が入浴できる日にちや時間帯を職員の勤務体制で決めることがあるものの、湯温や湯船に浸かる時間、好みのシャンプーやリンスの使用など、可能な範囲で利用者の習慣を尊重した支援に取り組んでいる。また、利用者は、週2回を基本として、入浴をすることができる。さらに、「すばる」ユニットにはリフト浴が完備され、利用者の状態に合わせて、「ほたる」ユニットにある個別浴槽と使い分けを行い、重度な利用者も湯船に浸かれるように、協力をしながら支援することができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	入浴時、その人のペースでゆっくりと入浴できるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る部分はご自分でして頂き、見守りをし、出来にくい部分だけ支援し、安心して入浴できるように支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いはせず、声掛けを変えてみたり時間をおいてみたりして、会話の中から探ったりして、工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行い、状態の確認を行っている。看護師に相談することもある。				

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者が1時間ごとに訪室し確認している。申し送りや日誌等でも確認が出来、把握している。	/	/	/	日中活動量を増やしたり、日光浴をしたりするなど、職員は利用者が夜間に良眠できるように努めている。また、隣の居室の音が気になる場合には、ベッドを壁から離す工夫を試みるなど、快適な環境づくりに努めている。中には、眠剤を服用している利用者があるものの、医師と相談しながら、服薬の量を調整している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やす工夫や、日光浴などをして整える取り組みをしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中、活動的に過ごされても、なかなか改善が見られない場合は、主治医と相談をしながら薬の調整を行っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の意思に任せていることが多い。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	自立されている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	要望がない為、行っていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話がかかってきた場合は、居室でゆっくり話をして頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙・ハガキなどは、すぐに本人にお渡ししたり、読んであげたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	要望があれば、職員が取り次ぎ協力して頂いている。ご家族さんには、何時かけても良いことを伝えている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解はしているが、本人が所持して、使うことが出来ない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナ禍で、外出する機会がなく出来ていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ禍で、外出する機会がなく出来ていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金の所持はしていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時、家族と相談しホームでおこずかいを管理している。必要なものがあれば、その中から購入している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	現金出納帳で管理し、毎月の収支をコピーして家族に送付している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	オンライン面会やLineでの写真の提供等に取り組んでいる。	◎	◎	◎	コロナ禍において、事業所では外出や面会などの制限が設けられることがあるものの、可能な範囲で、利用者や家族の要望に、迅速かつ柔軟に対応している。また、お墓参りを大切にしている利用者には、家族の協力を得て、病院受診後に立ち寄ってもらったり、家族の代わりに職員が病院受診の同行支援をしたり、希望の場所へドライブに出かけるなど、要望に合わせた支援をすることができている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先の花壇には、季節ごとの花を植えており、玄関には、時期に応じた飾り付けを心掛けている。	◎	○	◎	広い芝生の庭先にある事業所の玄関の両端には、季節の花を植えた花壇があるほか、スロープが設置されている。また、訪問調査日には、利用者と一緒に作った大きなクリスマスリースがドアに掛けられ、より良い雰囲気づくりがされていると感じることができた。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節に応じた掲示物を壁に掲示したり、ソファを置きゆったりとくつろげる工夫をしている。	◎	◎	◎	リビングにある大きな窓からは、広い庭が見渡せるほか、真向かいには、宇和島城の絶景を眺めることができる。共用空間には、利用者と一緒に作ったクリスマスツリーや生花を飾るなど、利用者は家庭的な雰囲気の中で、テーブルやソファなどの思い思いの場所でくつろぐことができている。また、掃き出し窓とデッキがつながっており、利用者は自由に出入りすることができる。さらに、事業所内は整理整頓が行き届き、利用者に安心して気持ちよく過ごしてもらえるような空間づくりをしている。加えて、加湿器や空間除菌装置が設置され、快適な環境となっている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、清潔に過ごして頂けるようにしている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に応じた飾り付けや、野菜つくり、花の水やりなどを取り入れ、心地よく過ごせるように工夫している。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファでくつろいだり、出窓の所で座られたりと思思いに過ごされている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	扉やカーテンなどがあり、直接見えないう工夫している。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居前に使っていたもの、気に入っているものなどを活かして居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎		◎	居室には、使い慣れた物などを持ち込むことができ、感謝状や家族の写真、ひ孫の命名色紙、テレビ、テーブル、いす、小物類などが持ち込まれ、一人ひとり合わせた個性のある空間づくりを支援している。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	浴室・トイレ等は、プレートで表示しており、分かりやすい工夫をしている。廊下には手すりが設置されており、安全に移動できるように配置している。				○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	洗剤や消毒などは鍵のかかる所で保管し、目の届かない工夫をしている。				事業所では利用者が迷わないように、居室に名前を大きく表示するとともに、トイレや浴室も分かりやすくプレートで表示されている。また、車いすや歩行器などの福祉用具を使用している利用者が、安心安全に移動できるように、動線を確保するなど、環境整備が行われている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌などいつでも手に取れるところに置き、工夫している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は施錠をせず、玄関はチャイムを設置・ユニット間も自由に行き来ができ、閉塞感はないと思われる。	◎	◎	◎		職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中には玄関等の施錠をせず、利用者は自由に出入りすることができる。また、訪問調査日には、デッキを活用して、併設しているグループホームへ行き、利用者同士で交流をしているほか、パンの移動販売の来訪時には自由にパンを買いに出る利用者の姿を見ることができた。さらに、夜間は防犯のため、玄関等の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時に家族に説明し、理解を得ている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	施錠なく、チャイムで対応している。また、他ユニットとも連携が取れている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシートやアセスメントで把握しており、病状に変化があった場合は申し送りやカンファレンスを行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックを行い、健康チェックシートに記載し、特変あれば、看護師に相談、日誌にも記載している。				
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	ユニットに看護師が配置されており、気になることがあれば、かかりつけ医に相談できる体制を整えている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人・家族に相談をし、希望に沿うよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族に確認を取り、協力医と適切な医療が受けられる様、支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診時に家族も同行して頂き、同行できない場合は、結果を報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	状態がわかるように、口頭で伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	病院での面会など、制限がある為行えていないが、退院前のカンファレンスやTELで相談や情報交換は行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	通院などには付き添っているが、関係づくりは出来ていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	ユニットに看護師が配置されており、気になることがあれば、かかりつけ医や協力医に相談できる体制を整えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力医や看護師にはいつでも相談が出来、連携は取れている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルチェックで、少しの変化に気付き早めの治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	服薬表を作成しており、薬品名・目的・用量・用法は理解できているが、副作用については、あまり理解が出来ていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝・昼・夕・就寝前と個別に袋を作り、名前を表示して飲み忘れや誤薬を防いでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬変更時は特に、注意し服薬して頂き、他職員とも確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化は記録に残し、状態や経過に応じ、協力医に相談している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時におおむね説明はしているが、状態に変化があった場合その都度、家族と医師の話し合いの場を設け、家族の意向や方針の確認を行っている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における対応に係る指針」「重度化及び看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明をしている。利用者の状態の変化等に応じて、利用者や家族に説明をするとともに、医師や関係者を交えて話し合い、方針を共有している。また、家族からの要望に応じて、協力医と連携を図りながら、これまでも24時間体制で積極的に看取り支援を実施している。さらに、代表者の家族が看護師として勤務し、敷地内にある住居に住んでいることもあり、職員の安心感にも繋がっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	必要に応じカンファレンスを行い、情報の共有に努めている。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	重症化・終末期の対応に経験が浅く、不安に感じている職員は少なくない。連絡や相談できる体制を整え、常に声掛けや説明を行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	必要に応じカンファレンスを行い、情報の共有に努め方針を伝えてる。協力医や訪問看護を導入し医療との連携を取りながら本人や家族を支えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族の思いに耳を傾け、それぞれの立場で心理的支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修で学ぶ機会があり、看護師からも指導がある。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修で学んだことをマニュアル化しミーティングなどで伝達している。感染予防用のセットも準備できており看護師の指導もある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ネットなどを通して情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	手洗い・マスク着用・消毒など行い、ワクチン接種など徹底している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	各ユニット・玄関などに消毒液・マスクを設置しており、使用の徹底、また、来客者にもお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	現状を伝え一緒に関わって頂くように関係を築いている。	/	/	/	コロナ禍以前は、笑ちゃんカフェや敬老会、お花見、花火大会などの様々な行事に、家族の参加協力を得て開催することができていたが、現在のコロナ禍において、家族への案内や呼びかけを中止している。代表者は、早く元通りの生活が送れることを強く願っている。また、毎月発行する事業所便りの送付に合わせて、担当職員が手紙を添えて、家族に利用者の様子を伝えている。コロナ禍において、オンラインでの面会に対応するとともに、家族の要望から、SNSの機能を活用して写真を送付し、大変喜ばれている。さらに、事業所便りに、行事報告や次回の予定、職員の異動や退職などを掲載し、事業所内の出来事を伝えることができています。加えて、職員は家族から、電話連絡時や手紙でのやり取りを活用して、意見や要望を聞くよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	気軽に来て頂けるよう工夫はしているが、コロナ禍で面会などは出来ていない。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナ禍で、出来ていない。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のあかり便りやご家族への手紙などで、報告出来ている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	リモート面会時などで、気になっていることを聞き、近況を報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所までの生活や性格・家族との関係性を伺い理解し、支援の方法を詰めて支援に繋げている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	コロナ禍で家族会なども開催が出来ておらず、その都度の報告が出来ていない。	◎	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ禍で運営推進会議・笑ちゃんカフェなど、家族が交流する機会を持つ事が出来ていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについては、入所時や手紙などを利用し、納得して頂いている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	玄関先ではあるが、来られた時に話を伺ったり、毎月の手紙などで連絡をとるようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者、または施設長が説明を行い、必要に応じて面談などを行い、理解して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に説明をし、ご家族に理解して頂いている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	文書にて報告をし、同意書を交わしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立する時より、地域住民には説明会を開くなどし理解を得ている。	/	◎	/	コロナ禍以前は、地域の運動会や文化祭、清掃活動など、利用者と一緒に地域行事に参加し、地域住民と交流することができていた。代表者は、コロナ禍前のような地域との交流の再開を願っている。また、コロナ禍においても、県内の感染縮小期には、保育園児に芋掘りに参加してもらうほか、ハロウィンの時には踊りを披露してもらうなど、その姿を利用者は怒越しに目を細めながら見学することができ、喜んでいる。さらに、後日お礼にと園児が事業所へ花を届けに来てくれ、利用者が直接手渡して受け取る様子の写真を見ることができた。加えて、事業所便りを地区の回覧板で回してもらい、情報を発信することもできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	以前は、町内清掃などに参加し、行事などの案内を出していたが、今は、出来ていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の協力は得られているが、地域の方の協力を得るのは難しい。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近隣の保育園児が、散歩に来たりはしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	月1回のあかり便りを配布している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	月に1度、ボランティア散髪の実施を受けている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	施設がいの支援は出来ていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	行事やイベント等、案内を出していたが、今は出来ていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	書面開催で参加して頂き、アンケート用紙を返信して頂いている。	/	○	○	運営推進会議は、家族や地域住民、自治会長、民生委員、小学校、保育園、他の介護サービス事業所、市担当者等の参加を得て開催をしている。現在のコロナ禍において、会議は書面開催となっているものの、アンケート用紙を配布して、意見などの返信をってもらうことができている。また、家族からは、「家族は会えないが、その分職員さんがいろいろ工夫しながら利用者を楽しませてくれている」などの感謝の言葉が出されるとともに、地域住民や地権者からは労いの言葉が寄せられている。さらに、出された意見等には、書面等で改善策や結果を報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価出た際、目標達成の計画を作成し報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	一方的な報告ではなく、意見や提案を頂き、取り組む努力をしている。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	テーマやメンバーは決めておらず、次回の日程のみ伝えている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	開催の都度、議事録を作成し、高齢者福祉課に提出している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	毎年、理念に基づくユニットの支援目標を職員全員で立てて、取り組む様にしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関に理念を掲げ、各ユニットのスタッフルームに目標を掲げ、目につくようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員の力量や、各職種に合わせて研修を進めている。				代表者は、事業所に来訪して滞在することが多く、職員と顔を合わせて話しをする機会があり、職員と同じ目線で対話し、対等な気持ちで職員と接することができるよう努めている。また、法人・事業所として、誕生月には職員にリフレッシュ休暇を与えるなど、働きやすい環境づくりに努めている。コロナ禍において、外部研修へ参加することは遠ざかっているものの、内部研修等を実施し、職員のスキルアップに努めている。さらに、訪問調査時の職員の聞き取りから、「働きやすい職場環境となっている」などの話しを聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	社内での研修は取り組めるよう努力はしているが、思うように出来ていない。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年度末に面談を行い、個々の勤務状況や努力をを把握し、モチベーションの向上に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ禍で同業者との交流を持つ機会が少ないが、オンラインで行われる市の連絡会などに参加している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	誕生月にリフレッシュ休暇を取得できるようしている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修を受け、どのような行為が虐待に当たるのか、理解している。				内部研修の議題に挙げて、職員は学ぶ機会があり、虐待防止の徹底に努めている。不適切な行為など、気になる言動が見られた場合には、管理者から当該職員にその場で話すとともに、注意喚起をしている。また、後で職員への指導や注意喚起を行うと、当該職員自身が気づいていない場合や、あいまいになってしまう場合があり、その場で伝えるようにしている。さらに、職員は、不適切な行為が見られた場合などの対応方法や手順を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	介護の現場に入り、報告を受けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員との会話やケアのやり方などに意識を向けて、不適切なケアと判断した場合は、施設長・管理者に報告している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務状況を把握し、ストレスや疲労がないか注意を払っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	利用者の安全を守る為、身体拘束となる対応をする場合、ご家族に説明し同意を得ている。職員も確認を行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	状況に応じて、身体拘束の必要性を確認する為、ミーティングなどで話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	施設や身体拘束の要望は、家族からは出ていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	成年後見制度を利用している方が居られ、学ぶ機会がある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	利用者・ご家族からの相談はない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要に応じて、情報提供はお混っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の連絡体制は整備しており、かかりつけ医にも連絡がつくような体制をとっている。マニュアル作成はしていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	AEDと救命措置の講習は受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットに記載して、職員間で検討、話し合いをもっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の考えられるリスクや危険について話し合い、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルはないが、家族とのやり取りは記録し、まとめている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	地域・ご家族からの苦情はきていないが、会話の内容などを記録し、必要があれば市町村に相談する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情がない為、対策案の検討は行っていないが、苦情が発生した場合は、速やかに回答し改善を行っていく。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	×	以前は2ヶ月に1度、介護相談員が来て機会を設けていたが、コロナ禍で機会がなくなっている。			○	日常生活の会話の中で、職員は意見や要望を引き出せるような雰囲気づくりを行い、利用者から要望等を聞いている。出された意見には、可能な限り、迅速に対応をしている。コロナ禍において、家族が来訪できる機会は激減しているものの、電話連絡時や手紙の送付時等を活用して、意見や要望を聞くように努めている。また、管理者は現場に出て、職員と一緒に働いていることから、日常的に職員の意見や要望を聞くことができる。出された意見はすぐ代表者に伝えるとともに、対応可能なことは、その日のうちに実行に移している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	家族会の開催など出来ていない。運営推進会議は、書面開催が多く、書面で意見や要望を聞いている。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時のみで、適時は行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	常に現場に入り、日常の仕事内容を確認し、職員の状態を把握している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場に入り、状況把握に努め、職員のいけんや提案を聞いている。			◎	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価の説明を行い、職員全員で1人1人自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価の作成は、職員全員で取り組むことができています。運営推進会議の中で、サービスの評価結果や、目標達成計画の取組み状況などを報告しているものの、会議に参加していない家族にまでは、事業所の取組み状況を伝えることができていないため、簡単にまとめた評価結果等を送付するなど、全ての家族に周知できる方法を職員間で検討することを期待したい。また、今後は家族や関係者等に評価結果を周知するとともに、意見を反映させながら、さらなる事業所の発展に繋がるような取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の内容は、職員間で確認し共有している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組める内容・実現できる目標を設定し、全体で取り組めるようにしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議メンバーやご家族には、郵送し説明、周知している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	確認が出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、周知出来ている。				事業所では、日中や夜間などを想定した避難訓練を実施している。また、コロナ禍以前は、地域の防災訓練に参加協力することもできていた。さらに、消防署や地元の消防団と連携を図ることができていた。事業所として、継続して地域住民との関わりが持てるよう努めているものの、現在のコロナ禍もあり、進展が難しくなっている。今後は、利用者の安心安全な生活が送れるように、少しずつ協力体制が構築できることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間帯を想定しての訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災委員があり、定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	近隣住民や他事業所との連携は図れていない。地域の消防団や消防署との連携は取れている。コロナ禍で訓練を見て頂いての評価や指導を受けることが出来ない。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	共同訓練は、市の開催する訓練のうち、情報伝達訓練のみ参加している。また、市の災害ネットワークには加入している。原子力災害の福祉施設の受け入れ体制は、整えている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	認知症に関する情報発信や啓発活動は取り組めていない。				事業所便りを地域に回覧し、毎月1日を相談日と記載し、周知案内をしている。また、法人・事業所として開催する「笑ちゃんカフェ」には、家族や地域住民、他の介護サービス事業所、介護支援専門員等が参加し、意見交換や相談対応をすることができていたが、現在のコロナ禍において、利用者と職員のみでの開催となっている。また、病院の看護師や就労している障害者、一般の介護従事者など、事業所見学の申し込みも多く、コロナ禍を見計らいながら、現在は可能な範囲で対応している。さらに、代表者は長年にわたり介護に従事している経験から多くの人脈が豊富で、医療や福祉、学校等との連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	施設見学はいつでも受け入れており、電話での相談・問い合わせにも、対応出来る様に努めている。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	以前は、解放し交流の場所として活用していたが、今では、保育園児のお散歩コースになっているだけ。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍で、受け入れが出来ていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	通院や相談を通して、協力医や専門機関との連携を図るようにしている。			○	